

地下茎と地下倉庫

3号

S.56.10.15
発行.

≡ カラスウリ...地下の栄養倉庫をぞとめて ≡

● ゴンビの上で「光との合戦」

夏、ボコの家のお前の土堤ぎわにある、ゴンビ(グミ)の木に、カラスウリが、からまりつき、木の上、全体にのび、葉をひろげていた。白い綿毛の花もきれいだった。うるのひていく様子は、まるで「もっと光を...」と言わんばかりに、ゴンゴンのひていった。そして葉を、光をもらすことなく受けとろうとすがごとくひろげた。やがて、そこにそうひとつの好敵手(?)が出現した。アサガオである。アサガオを、駆けてはならぬと、ゴンビ(グミ)にからまり葉を広げる。ゴンビの木の上は、さながら、「光との合戦」の戦場の様を呈する。

● 地下に栄養の倉庫が

今は、そう秋深し。戦場はやや静けさをとりもどした。ガッジョリ四つに



実...
「三きしごわけのときつめたよ」という話もどる。

種子



地下茎 (イモ)

二個、三個つるからたぶらもある。花粉がぐりに使ったという。

図1

〔カラスウリ〕

組んだまま、葉が枯れはじめていた。

朝、少し早起きして、からまった。アサガオと、カラスウリをほどき、カラスウリのつるを切らぬようにとりはずし、つるの根もとを掘る。

「あった!!」 やっぱりあったのだ。

あの戦いで得た。栄養は、しっかりと、
地下に貯め込んでいたのである。

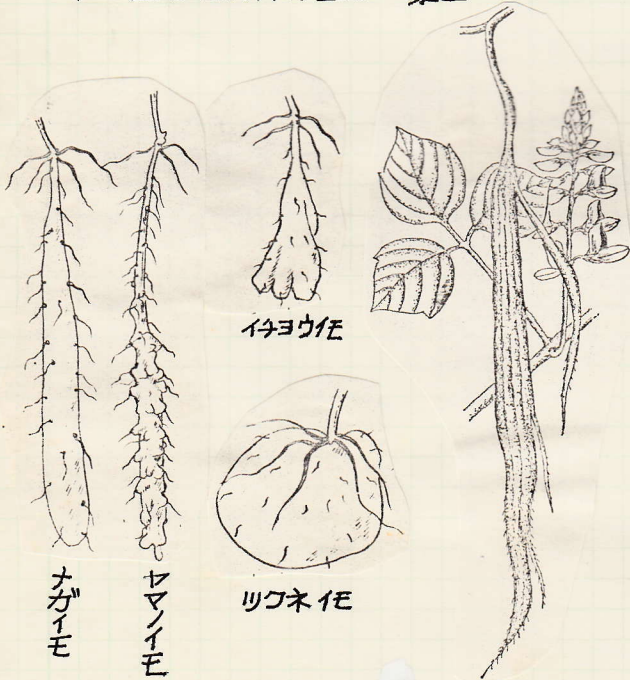
さっそく教室にそち込む。「光とり
競争」「茎は、光とり競争の武器の学
習のあとである。ここで、つる植物
をやると、子供たちは言う「つる植
物は、きたねえやつや、自分でたん
とて...」「ひきょうなやつや」と。

そこで、そち込んだ、カラスウリの
つるをのぼしてみる。教室の前から後
まである。10m 以上はある。

「すごー長いな」の声。そこで、夏の
あの戦いの様子を話す。そして、子
供たちに聞く。「あんな...カラスウリ
は、ゴンビの木の上で、葉をひろげて

光合成を、やっていたんやけど、その木
の上までいくのに栄養いるやろ。つるを
のぼし、からまるのに...。その栄養ど
うしたんやろ」。栄養をつくりながら
ではないことは、根もとより、数mは
ほとんど葉をつけている、細いことよ
りわかる。子供たちは、ときどうが、
しばらくすると、「球根ちがうか」
「イモがあるんやろ」。そこで、かくし
ておいた、イモ(地下茎)を見せる。
「あ、やっぱりな」と声。そして、「それ
食べるん」と聞く。そこで、これで天
花粉をついた話をする。また、一緒
に持ち込んだ、ヤマイモのつるとイモを
見せる。(ヤマイモは、家の畑で「クズ」
「オコウロカ」
いる。)

「また、ようさん、ため込んでるな」と。
このあと、「5年生つる植物が、いっ
ぱいため込んでいる地下の栄養倉庫を
掘りだそう」と話したら、カラスウリは
そちらん、ヤゴガウシや、ヤマイモ(ジ
ュネンジョ)などが、教室へそち込まれ
ている。クズが枯れたらクズに挑戦す
ると、話してくれる子もいる。たのしみ
である。(楠田)



[図2. ヤマイモ(13113)]

[図3. クズ]

参考文献

図1.3 「生物をどう教えるか」
(黒田弘行著 新性出版)

図2 「兵庫の山菜」
(室井緯). 神戸新聞
社